

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

回 ガリラヤ巡礼に至る重要な出来事

6. 多く赦され、多く愛された女性

ディリー・ジーザス・ニュース #086

基本テキスト: LK 7.36-50 (並行テキスト: なし)

36 あるパリサイ人がイエスを食事に招いたので、イエスはそのパリサイ人の家に入って食卓に着かれた。37 見よ、その町に住む罪深い女が、イエスがパリサイ人の家で食事をしておられることを知り、香油の入った石膏の壺を持ってそこへ行った。38 彼女はイエスの後ろの足元に立って泣き続け、涙でイエスの足をぬぐい、髪で拭い、口づけをしながら香油を注いだ。

39 イエスを招いたパリサイ人は、これを見て、心の中で言った。「もしこの人が本当の預言者なら—もちろん彼は預言者ではないが—自分に触っているのがだれか、また、どんな女であるか、すなわち罪人であることが分かるはずだ。」

40 イエスは彼に答えました。「シモン、あなたに話したいことがある。」

」教えてください、先生」と彼は言った。

41 「ある金貸しに、ふたりの人が借金をしていました。ひとりは五百日分の賃金、もうひとりは五十日分の賃金でした。42 どちらも返済するお金がなかつたので、金貸しはふたりの借金を帳消しにしてあげました。さて、どちらが彼を多く愛するでしょうか。」

43 シモンは答えました。「より大きな借金を免除してもらった人だと思います。」

「あなたの判断は正しい」とイエスは言いました。

44 それからイエスは女のほうを振り向いてシモンに言わされた。「この女を見ますか。わたしがあなたの家に入ったとき、あなたはわたしに足を洗う水もくれなかつたのに、彼女は涙でわたしの足をぬぐい、髪の毛で拭いてくれたのです。」

45 「あなたは私に接吻をしてくれなかつたが、この女は私が入った時からずっと私の足に接吻し続けている。」

46 「あなたはわたしの頭に油を塗ってくれなかつたが、彼女はわたしの足に香油を注いでくれた。」

47 ですから、あなたがたに言います。彼女の多くの罪は、彼女の大きな愛のゆえに、完全に赦されています。しかし、少しだけ赦された者は、少しだけ愛するのです。」

48 するとイエスは彼女にこう言いました。「あなたの罪は永久に赦されました。」

49 他の客たちは互いに言い始めました。「罪を赦すこの人はいったい何者だ？」

50 イエスはその女に言われた。「あなたの信仰があなたを救いました。行きなさい。そして平和に暮らしなさい。」

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています。** 旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	パリサイ人シモンの家、ガリラヤのどこか
タイムライン	西暦31年5月（第16月）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	回ガリラヤ巡礼に至る重要な出来事
タイトル	6. 多く赦され、多く愛された女性

コメント：

の二度目のガリラヤ巡礼に至る最後の出来事は、イエスの物語の中で最も貴重で美しいものの一つです。聖書における赦しに関する最も深遠な真理の一つを、イエスの口から直接語ってくれました。同時に、二度目の巡礼で間もなく起こるパリサイ人からの公然たる拒絶を予兆し、イエスに暗い影を落としました。この場面におけるシモンと罪深い女の対比は、これ以上ないほど深いものがありました。

ルカの卓越した技巧は、この短い記述の中に十分に表れています。彼はこの物語を福音書に含めた唯一の記者です。イエスの生涯の終わりに、マルタ（そしてラザロ）の姉妹であるマリアが油を塗る出来事は、確かにルカと似ています。しかし、二つの物語の詳細と背景の違いから、これらは二つの異なる出来事であったと結論づけることができます。

パリサイ人シモンは、イエスを自宅に招き、他のパリサイ人たちとの晩餐会に出席させました。これは表面上は友好的な行為でしたが、晩餐会中のシモンの態度と行動は、イエスへの無礼と軽蔑を示していました。客が家に到着すると、主人はその足を洗わせるのが習慣でした。また、オリーブ油を頭に塗ることは、さらなる敬意と愛情の表れでした。シモンがこれらのこと拒否したこと、イエスは招待されているものの歓迎されていない客であるという明確なメッセージを送ったのです。

さらに、シモンは、イエスが地域社会で「罪深い女」として知られる女性の涙と油注ぎを受け入れているのを見て、イエスが真の預言者であるはずがないと心の中で断定しました。どうやら彼は、その女性の卑劣な性格を見抜けなかったようです。シモンはイエスが真の神の人であると信じていなかつたため、他のパリサイ人と同様に、イエスは詐欺師であり冒涜者であるとしか考えられませんでした。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

これはイエスにとって友好的な場ではありませんでした。空気は裁きと非難で満ち溢っていました。主は招きを受け入れた時点で、このような状況になることを承知していましたが、それでも受け入れました。敵に對して示したイエスの典型的な愛を見てください。

第二回ガリラヤ巡回旅行の直前に起こった六つの出来事は、イエスがローマの百人隊長に、これまで見たこともないほどの信仰を示されたことから始まりました。そして今、それはイエスの宣教における、おそらく最も偉大な悔い改めの模範で終わりを迎えます。冷酷で傲慢なパリサイ人シモンとは対照的に、ある「罪深い女」がイエスの生涯で他に類を見ないほどの愛をイエスに注ぎました。彼女は誰で、なぜそうしたのでしょうか。

ルカがその女性を「罪深い」と呼んでいること、そしてシモンが彼女に対して示した態度から、彼女はおそらく売春婦だったことが分かります。彼女は売春婦の仕事で成功しており、高価なアラバスターの壺に油を塗った「香油」を詰めていました。これは数年分の貯金に相当し、おそらく彼女の個人資産だったのでしょうか。しかし、その富にもかかわらず、イエスに出会うまでは罪悪感と恥辱感に苛まれていました。

彼女はおそらく、イエスがガリラヤを初めて巡回された際に説教を聞いたのだろう。町から町へとイエスの後を追う大群衆の中にいたのかもしれない。いずれにせよ、真の義を求めて飢え渴き、嘆き、苦しむ、心の傷ついた貧しい人々へのイエスの希望のメッセージは、彼女の頭と心を初めて希望で満たしました。

彼女は罪深い人生のために永遠に罪に定められていると感じていました。それは、当時の社会で最も「靈的」で「神に正しく接する」人々、つまりシモンのようなパリサイ人たちが、ことあるごとに彼女に繰り返し説いた考えでした。彼らは彼女を土くれのように扱い、彼女も長い間同じ思いを抱き続けたため、神にとっても、他の誰にとっても、自分の肉体の市場価値以外には何の価値もないと思い込むようになっていました。

イエスの完全な赦しのメッセージは、ハリケーンの勢いと、晩夏の涼しい夕風の優しく癒しの恵みをもって、この傷ついた女性に届きました。神は、毎日餌を与えていた雀や、美しく輝かしいユリの花よりも、彼女をはるかに愛していたのでしょうか。彼女の命は本当に神にとって大切なものだったのでしょうか。恐ろしく取り返しのつかない選択で人生を台無しにしてしまったにもかかわらず、彼女は神の娘としてふさわしいのでしょうか。彼女はイエスのメッセージと宣教活動を通して、こうした思いすべてに響き渡る「はい」という声を聞きました。そして、イエスのメッセージ、そしてイエスが神について語ったすべてのことの真実として、イエスを信じる日が来たのです。

イエスが招きの中で約束された通り、彼女が喜んでイエスのくびきを受け入れた時、彼女は安らぎ、平安、喜び、そして今まで想像もできなかった愛を見出し、内面から新しく生まれ変わりました。罪悪感と積み重なった罪の重荷はすべて、昨夜の夕日のようにはっきりと消え去りました。その代わりに、神への感謝、賛美、そして痛みを伴うほどの強い愛が湧き上りました。彼女は多くのことを赦され、噴火する火山のように、愛が彼女の中に湧き上りました。

彼女にできることはただ一つ。イエスに「ありがとう！」と言いに行かなければならなかった。彼女は家に駆け込み、香油の入った石膏の壺を取り出した。イエスがシモンの家にいると聞いていたので、裏口からそっと入り、部屋に入るとすぐに部屋を見渡した。すると、シモンから三人下のソファにイエスが寄りかか

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

つているのが見えた。しかし、その光景はどこかおかしい。とてもおかしい。イエスの足には埃と泥の跡が付いていたのだ。

彼女は愕然とした。イエスを家に招き入れておきながら、足湯を拒否する人がいるだろうか？誰がそんなことをするだろうか？実際に会う前に、そんな男の鋭く軽蔑的な視線が彼女の顔に感じられた。彼女が家に入ってきたことに対する彼の怒り、そして彼女の罪深さに対する非難は、たとえ彼女が盲目であったとしても、十分に感じ取れるほど強烈だった。彼女を惜しみなく赦してくださった方への愛がこみ上げてきた。そして、イエスがシモンのように扱われると思うと、彼女の心は張り裂けそうになった。彼女はそれに値する、いや、それ以上のことをしてしかるべきだった。しかし、イエスはそうではなかった。とんでもない！

そして涙が流れ出た。熱く、自由に流れ、小さな流れとなって彼女の顔から滴り落ちた。

涙がイエスの足に飛び散ると、次第に薄くなり、埃や泥の跡を切り裂きました。それを見た彼女は、イエスの大切な足を清められる喜びで、さらに激しく泣き、涙の風呂となりました。彼女は髪をなびかせ、タオルのようにして足を拭き始めました。そして、赦しの福音をもたらした美しい足にキスをし始めました。いつの間にか、彼女は雪花石膏の壺を割り、香油をイエスの足に塗っていました。

すべてがあまりにもあつという間で、部屋にいた誰もが驚きのあまり反応できなかった。イエスを除いては。イエスは何が起こっているのか、そしてなぜ起こっているのかをはっきりと理解していた。彼女はイエスの赦しを経験した。イエスへの信仰が彼女を救った。彼女は新しく創造された。大きな赦しが、それに応える愛を生み出したのだ。

の考えを明かし、シモンが眞の預言者であることを示し、眞の赦しがそれを受け入れる人にどのような影響を与えるかという教訓を教えた後、彼女の赦しが永遠のものであることを改めて強調しました。イエスは彼女の罪を永遠に赦し、二度と罪が思い出されることがないようにしました。彼女はイエスの平安の中で生きることを決してやめないようにと命じられました。

すべての罪は不信仰に根ざし、自己愛、罪、快楽によって強化されますが、罪には神への愛が欠けています。私たちが神を愛するとき、従うのは義務感からではなく、望むからです。ですから、赦しには二重の恵みがあります。一つ目は、赦しという行為と、赦しそのものがもたらす数々の輝かしい結果です。二つ目の恵みは、赦しによって、私たちが赦しの深さをどれだけ認識するかに応じて、赦し主を愛するようになることです。愛とともに、喜びに満ちた従順が生まれます。

私たちは愛の欠如のために罪を犯しました。赦しは私たちを愛で満たし、旋回するDervishの情熱とともに罪から従順へと転向させてくれます。この女性は、福音書の中で赦しの二重の恵みを最もよく表しています。

応用：

あなたはどれくらい許されましたか？

神への愛の強さは、私たちがどれほどの赦しを受け取ったかという認識によって決まります。シモンは立派なパリサイ人だったので、それほど多くの赦しを必要としませんでした。もしかしたら、全く必要としなかったかもしれません。少なくとも彼はそう思っていました。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

なのは、イエスが私たちの赦しのために払われた代価こそが、私たちの罪の大きさを示すということです。もしある人が過去に比較的「小さな」罪を犯したとしたら、それはイエスの苦しみがわずかな「罪に分けられたことを意味します。つまり、それぞれの罪が極めて重大だったということです。私たちは多くの赦しを受けたのです！

「罪深い」女性のように、自分が「多くの」罪を犯したと確信している人は、イエスの苦しみが「たくさんの」罪に分けられたことを意味します。私たちは多くの赦しを受けています！

「少ない」罪を償うために死んだのか、 「多くの」罪を償うために死んだのかは問題ではありません。イエスは私たちの罪の重荷を償うために、計り知れないほどの代価を払ってくださいました。私たちは理解できないほど多くの赦しを受け、その赦しに応えて、私たちが持てる限りの情熱と献身をもって神を愛するに足るほどの赦しを受けました。

イエスは本当にすべてを支払ってくださいました。私たちはすべてをイエスに負っています。すべてです！

イエスへの愛から、これまであなたが捧げた最も貴重な宝物は何ですか？それはあなたの全てでしたか？あなたの許しの深さは、今日、あなたに何を捧げようという気持ちを起こさせますか？